寫眞週報

情報局編輯

三月四日・第二百十號・十セン

昭和十三年二月十二日 第三種郵便物認可 昭和十七年三月四日發行（毎週一回水曜日發行） 第二百十

天皇陛下 民草の赤誠にこたへさせ給ふ

二月十八日 宮城前廣場

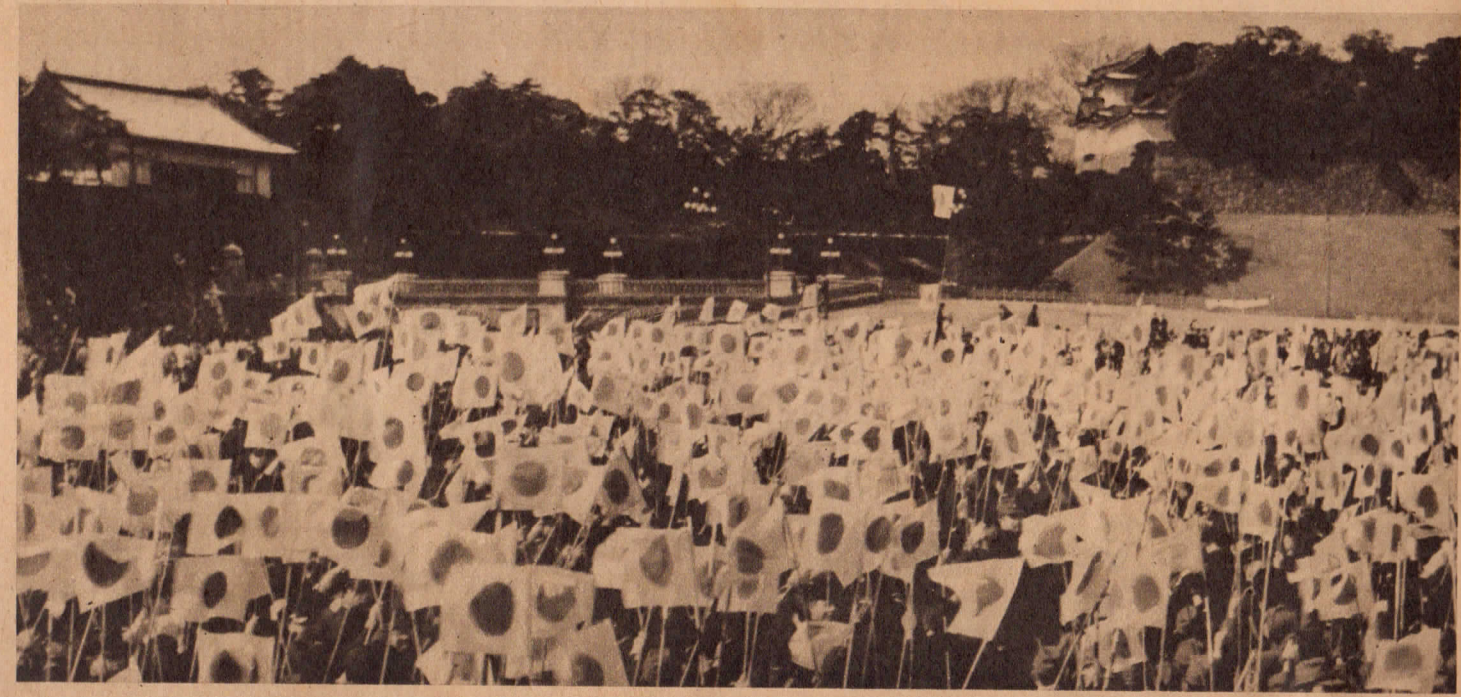
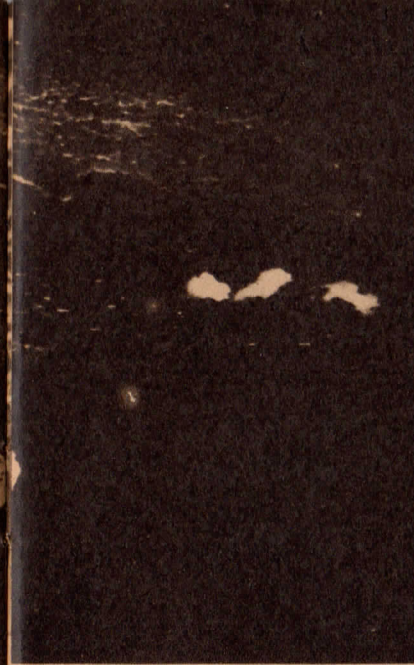
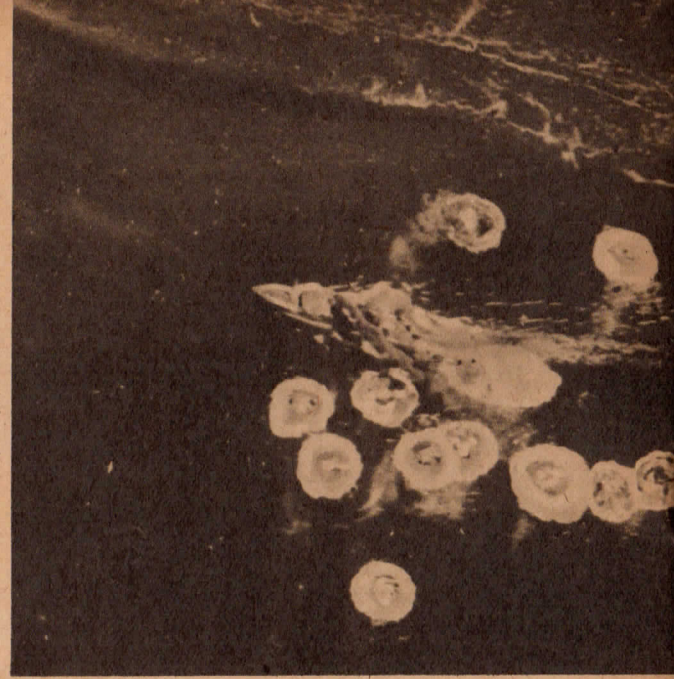
一億國民が歡喜と感激のうちに迎へた戰捷第一次祝賀の日、二月十八日

この日赤誠溢れる民草は未明から宮城二重橋前廣場を埋めつくし、聖壽萬歲のどよめきは終日大内山の綠にこだましたが、天皇陛下には皇軍の大戰果に天機殊の他御麗はしく、午後一時五十五分御愛馬『白雪』に召させられ鐵橋中央に出御遊ばされ、蒼生の赤誠にこたへさせられて親しく御擧手の御會釋を賜つたのである。はからずも民草の赤誠を嘉し給ふ至尊の御姿を拜し奉つた有難さ、身にあまる光榮と廣場を埋めるものはたゞ感激の淚にぬれて聖壽の萬歲を絶叫し、國歌を奉唱したのであつた

また次いで午後二時十分、皇后陛下竝びに皇太子殿下には照宮、孝宮、順宮三内親王殿下と御同列にて橋上に御出まし遊ばされ、畏くも御手に日の丸の旗を打ち振らせられて蒼生の盡きせぬ歡呼をうけさせられたが、重なる光榮に會ふことを得た人々は今はたゞ戰ひ抜く決意をいよ〳〵固めるのであつた

シンガポール陥落す

二月十五日

⇦燃え上るセレター軍港――約百二十年間東亞十億の民族を壓政と搾取に呻吟せしめた鐵鎖が斷ち切られる日も間近かに、陥落直前のシンガポール島を見る

⇦敵はシンガポール島からの脱出を企圖して、多數艦船をシンガポール港周邊に集結したが、悉くわが荒鷲の餌食となつてダンケルク以上の慘敗を喫した

ジョホール水道も遂に越えた上陸以來六十餘日、凡ゆる困難を克服してシンガポール島に上陸第一歩を印したのだ。最後の止めを刺すべく意氣揚がる○○部隊⇩

★　★

シンガポールの陥落と共に老英帝國の弔鐘はいゝときは高く鳴り響く。しかも當のシンガポール島は二月十七日その名も昭南島と生れ更り、今後名實共に南方共榮圏の一大據點として大東亞戰完遂に不動の態勢を整へることになつた

わが强力な軍政の下、昭南市の復興ぶりは全く目覺しい。完全な治安の維持はいふまでもないが、瓦斯水道、電燈の復舊は忽ちにして成り、軍の統制下に市場の開設、各官廳の事務の開始、銀行商店の開業等と、昭南市は戰前の繁榮を思はせる明朗さを急速調にとりもどしつゝある

なほ、また陥落後僅か五日にしてジョホールバール昭南市間二十六・四キロの鐵路は完全に復舊した、卽ちわが鐵道部隊は不眠不休の努力によつて、急速にコースウエー橋の修理に成功、二月二十日早くも昭南市を出發した處女列車は逞しい復興譜を奏でながらジョホール水道を突破して遂にジョホールバール驛に滑り込んだのであるが、これによつてマレー半島を縱貫長驅バンコクに至る三千キロの鐵道は全部開通を見るに至つたのである

★　★

わが鐵牛部隊地軸を搖つてシンガポール市内に迫る。マレー戰線を踏破すること千百キロ、無限軌道の轟きは、今シンガポール港に世紀の凱歌を奏でたのだ⇩

撮影　同盟通信社
日本映画社

現地―東京間同盟機空輸

⇦一發、一發、必中の巨彈が敵陣を破摧してゆく。イギリスが世界に誇つた十八吋要塞砲に挑むわが砲兵部隊の活躍

シンガポール陥落す

二月十五日

戰意を失つて手を擧げる英本國兵の群——シンガポール島攻略戰に於いてわが陸軍部隊が獲得した俘虜の數は、軍司令官パーシバル中將以下約七萬三千名である⇩

⇨マレー方面帝國陸軍部隊は本十五日午後七時五十分シンガポール島要塞の敵をして無條件降伏せしめたり……あゝ忘れ得ぬ感激、敵は白旗を掲げてわが軍門に降つた。白旗持つはニユーピギン代將、英旗持つはトランス代將、右端はパーシバル中將

⇧難攻不落を誇つたシンガポール要塞もあつけなく潰え去つた。大東亞戰爭史に殘る不滅の一頁——市外フォード會社跡に於ける降服會議に望む山下最高指揮官

⇦ラッフルスの像も今は空し。敗殘の身をいとも呑氣に打笑つてゐる俘虜の姿にイギリスの將來が暗示されてゐる

⇦征旅千百キロ、ジャングルも濕地も、そして灼熱の太陽も、今日の日を目指して克服して來たのだ。萬歳！萬歳！

息吹くマニラ

敢然アメリカの權力に抗してマニラに踏みとゞまつたヴァルガス氏は行政長官の重責につくや、皇軍協力の下、直ちに更生比島の建設に著手した

大マニラ市は米軍の焦土戰術に類する無謀な撤退と市民の掠奪行爲で一時死の都市となりかけたが、皇軍の入城で治安は確保され、ヴァルガス行政長官の下に皇軍に協力する警察の努力で著しく平靜を取戾し街の人出も日毎に多く、車馬の往來も目につき正に開戰前の繁榮をみようとしてゐる。各商店も軍當局の諒解により開店を急いでゐるから復舊も遠からずと觀測される。マニラ電氣の經營にかゝる市內電車も日毎にその臺數を增し大體百五十臺ぐらゐになつてゐる

釣錢が不足して運轉に圓滑を缺くので五十仙以下一仙までの金額を記入した切符を發行しこれで代用させることになつた

市民に對する白米の配給も順序よく行はれてゐるが、何分治安の回復と共に市民が續續歸つてくるので國立米穀會社では我が軍當局から許可を受け米產地たる中央ルソン各地に吏員を派遣することになつてゐる

市民の娛樂機關である映畫館も現在はまだ二流館の開設をみてゐるに過ぎないが、近く一流館の開設も豫想されてゐる

⇦マニラの銀座エスコルタ街、市電も動き出し、カルマタもパカポコと更生する

⇦新聞が早くも機能を回復して刻々の戰勝ニュースが寫眞とともに報道される

⇨皇軍の入城によつて蘇生の思ひをした邦人たちは日本人會本部を中心に皇軍の協力によつて順調に生活再建の第一歩を踏み出した

マニラの印象

石坂洋次郎

マニラ市に入つて四五日しか經たないが、その間の見聞によつて自分に植ゑつけられた第一印象はいかにも殖民地らしい雜然とした町だといふことだつた。官廳街には高層な近代式建物が櫛比して居り、ブロードウェイやニューマニラのあたりには瀟洒とした住宅が木の間がくれに散在して居る。一歩橫町に足を踏み入れると、埃に塗れた粗末な家々が軒を並べて狹苦しく押し並んで居る。通行人を見ても、住民はもとより支那人あり白人あり混血種あり從つて言葉も英語、スペイン語、タカログ語等雜多なものが用ひられてゐるやうだ。見てゐると、大抵の人間が二、三種の言葉を苦もなく喋つてゐる。器用と云へば器用だが、その代りどの國の言葉もひどくお粗末なものになつてしまつてゐる。そして言語の上に見られる此の輕薄性はそのまゝマニラ市の性格であるとも云へよう。日本人は一般に外國語に習熟することが不得手だと云はれるが、此處に來てみて、それは寧ろ日本人の一長所を示すものではないかと思つた。われら日本人の血はそれだけ純粹であり、われら日本人の母國に對する愛着はそれだけ深いことを意味するからである

『旅の恥はかき捨て』といふ諺どほり、人間は家鄉を離れると、とかく無責任な氣持に陷り易い。市內を漫步してゐる外人達の樣子を見ても、戰爭はどこにあるといつた風なだらしの無い恰好をした者が多い。こんな外人共に澤山住まはれ、しかも彼等に頭を抑へられてゐる住民達こそ氣の毒千萬な話である

住民はわれわれ日本人にとつて決して赤の他人ではない。彼等の顏や皮膚を見ても分る通り、我等と彼等は同じ血の流れから分れたアジア人種である。これが長い間白人達の搾取と秕政に喘いで來た結果、今日の彼等はすつかり骨拔きにされた意氣地の無い存在になつてしまつてゐるやうだが、われわれ日本人としてはこれをそのまゝに拱手傍觀して居るべきではない。彼等の中に眠つてゐる精悍且つ勤勉なアジア民族の意識を呼び醒まし、東亞の同胞として、相協力して白人の侵略に拮抗し得るやうな民族に育て上げてやらなければならない

今日の段階に於ける、聖戰の最も大いなる意義は、玆に存するものと思ふ

（前線出發の日を明日に控へて。一月十日午後）

フィリピン雜感

今日出海

我々報道班がマニラに入城して以來一週間になる。街並は無血入城だけに靜かで整つてゐる。海岸通りのドライヴ・ウェイには夕方ベンチに、樹蔭に散策者ののどかな姿を見るのだが、考へてみれば散策などしてゐられる身分ではない筈だ。米國依存の一筋道を步いて來た彼等の經濟、政治、文化、樣々の分野に於てどのやうな方策があるのだらうか。食糧難、生活難が既に眼前に迫つてゐるではないか。餘りに永い隸屬生活は既に獨自の文化を持つ力を失つてゐるのではなからうか。私はマニラに來る道で多くの町や部落を通り宿泊もした。そこでどんな小さな町にも美容院を見たが、然し本屋といふものがなかつた。化粧品屋の店頭に少しばかり米國の三文小說が並んでゐるのを認めただけに過ぎなかつた。米國の愚民政策に彼等は巧に乘ぜられて、知性を失ひ、求知心を喪失してしまつたとでもいふのだらうか。既に山間に逃げのびて空家になつた家には婦人の衣裳が常に山積されてゐるのを私は觀察した。麻やレースの派手な衣裝が、粗末な家の中から發見される每に私は悲しい思ひをさせられた。粗削りの板に安價なペンキを塗つたバラックに住み、文化の傳統も知的な生活もなく、唯美しい衣裝を貯へ、七面鳥のやうに檻の中を淺薄な足取りで步く比島の女性達が彷彿としたからだ

古色蒼然たる教會堂は西班牙文化の名殘であり、坦々たる國道、ホテル、さてはせうしやな自動車は亞米利加の物質文化の形骸である。何處に比島自體の文化があり傳統があるのであらうか。搾取され愚民政策と熱帶の氣溫に怠惰になつた比島人が束の間の快樂と明日を思はぬ刹那主義に荒廢し切つてゐる姿を私はまざまざと見た。東亞人の解放の眞義が私の胸に一種義憤の如く湧き上るのを覺える。何ごとも知らされず、何ものも教へられず望むことすら忘れ去つたをさな兒を正しく強く育てる義務と責任が今更の如く新鮮に強力に意識されるのである

⇨大型バスから小型自動車に至るまで敵の遺棄した自動車の數はおびただしい・持主の申出を待つ係りの兵隊さんもその整理には一苦勞だ

撮影 日本映画社

帝国軍艦旗翩翻たり

昭南島セレター軍港

堂々とセレター軍港に入る海軍陸戦隊⇩

わが海軍部隊はイギリスが東洋最大の軍港と誇つたセレター軍港を二月十四日完全に占領した

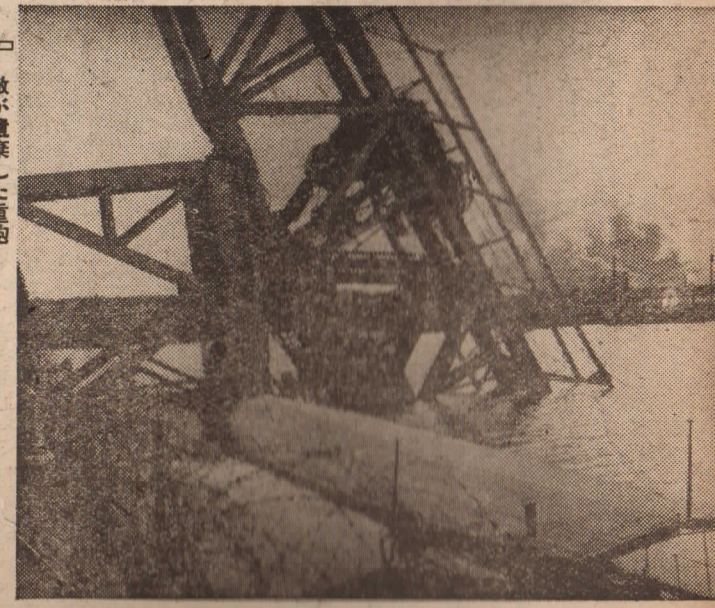
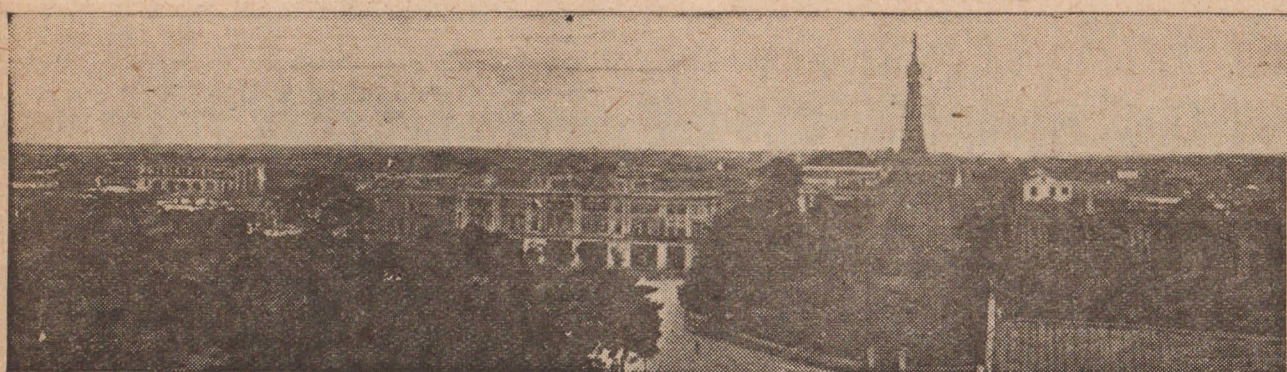
セレター軍港はイギリス東洋艦隊の根據地であつて、イギリスがワシントン會議で日英同盟を廢棄してから總工費二千二百万ポンドの巨費を投じて築工、いまから四年前に竣工式をあげた。シンガポール全島の要塞化と相俟つて、この軍港あれば『東洋におけるイギリスの地位は永久に不動だ。日本何するものぞ』と豪語したのも今は空しく、セレター軍港鎮守府上にはユニオンジャックに代つて帝國軍艦旗が翩翻とはためいてゐる

五万トンの戰艦を收容し、驅逐艦九隻を一時に入渠できると誇つた浮ドックの施設まで持つた同軍港も皇軍に對しては何ら威力を發揮することはできなかつたが、昭南島として更生したわが軍港として、早くも西南太平洋を睨み、印度洋の咽喉元を扼し堂々と帝國海軍の根據地として一威觀を加へたのである

⇧掃蕩を終り、セレター軍港は完全にわが手に歸した

撮影　日野海軍報道班員

⇨軍港鎮守府の屋上て感激の萬歳を叫ぶ海軍部隊

⇦わが爆撃にあつて水中にメリ込んだ港内のクレーン

⇦敵が遺棄した重砲

ラングーン

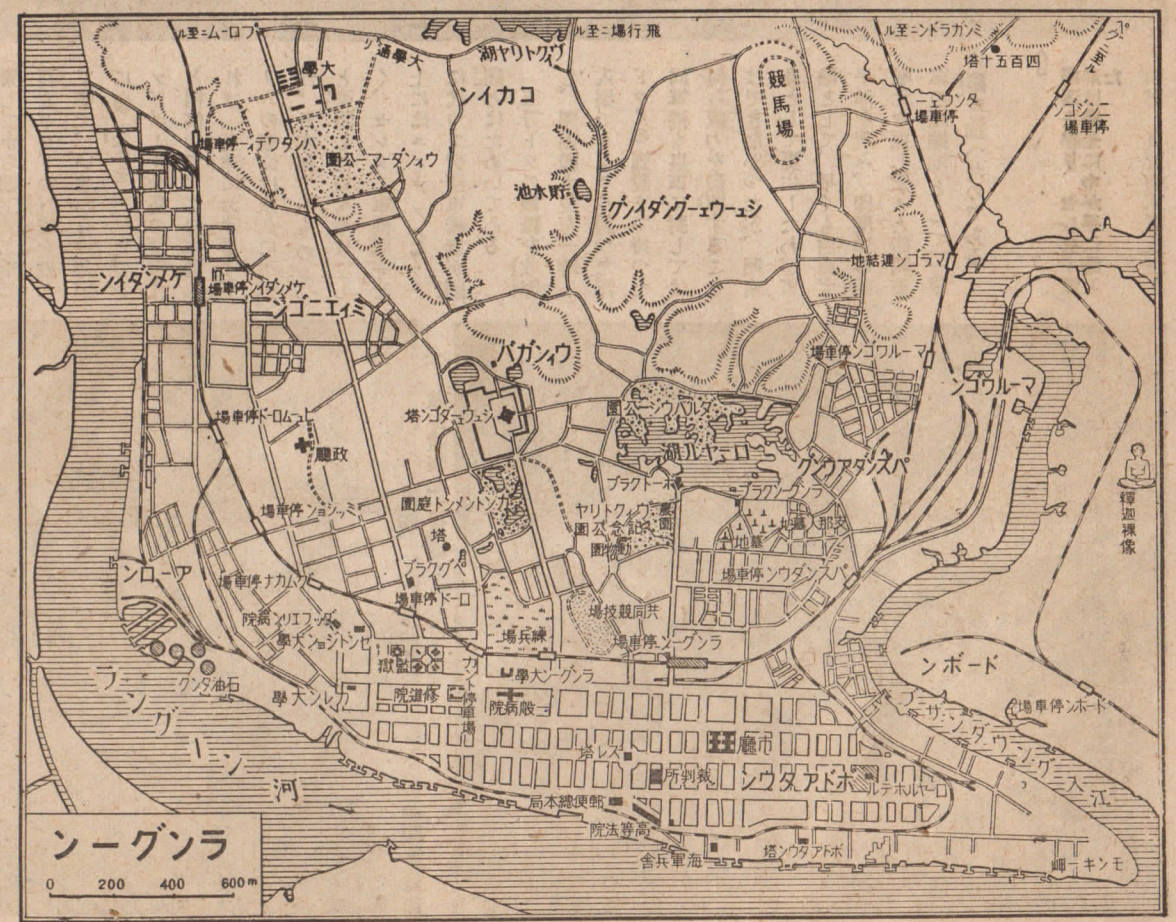
⇧ ラングーン市の西部地域

モールメン、マルタバンの堅陣を拔いて破竹の進撃を續けるわが軍は、二月十八日ビリン河を渡河し、刄向ふ敵軍に應接の遑なからしめ、一路ラングーンへと進撃を續けてゐる。向ふ所敵なきわが痛撃の前には、むろんラングーンの英陣も日ならずして崩れ去るであらう。そして全ビルマ平定の聖戰はいよ〳〵酣となつてゆくことであらう。この機會にビルマの首都ラングーンに暫し目を留めてみよう

ラングーンといへば、何よりもビルマ・ルートの基點としてわれわれにとつては心憎い所であつた。日本をあてつけに、援蔣物資を滿載した米英の船舶が太平洋や印度洋を我が物顏に航行して、ラングーンに荷揚げされ、こゝからラシオ及びミチナに至る狹軌鐵道、或ひはラシオに至る自動車路、またはバーモに至る水路の三ルートによつて國境に達し、重慶へと送られたのであつた。蔣政權が香港や佛印からのルートをいち早く失つても不敵な强がりをいふことのできたのは、實際このビルマ・ルートがあつて米英を賴みにできたからであつた

がしかし、東亞の情勢は今日全く一變した。蔣政權が後生大事にしがみついて來たビルマ・ルートが、直接皇軍の手によつてその門戸ラングーンを閉鎖されようとし、今後の戰線擴大によつては次第にその全機能を失ふ日さへ決して遠くはないのである。敵性ビルマ・ルートの名を聞くこと久しかつただけに、われわれの感慨は一入深いものがある

× ×

ラングーンはイラワディ河の下流に展開するデルタ地帶の南部にあつて、イラワディ河の分流ラングーン河の北岸に沿つた大都市である。海岸から二十一哩餘り離れてゐるが、印度のカルカッタ、ボンベイに續く印度洋の商港である。こゝから輸出される主なるものは、いはゆるラングーン米、木材、原棉、石油で、また主な輸入品は石炭、綿製品、金屬、絹、機械、砂糖等であつた。もしラングーンにして陷落せんか、既にメルグイ、モールメンは皇軍の手に歸し、殘る要港は西方インド國境に近いアキャブたゞ一つとなる

ラングーン河北岸は埠頭や倉庫が立ち並び、その後方が殷賑な商業地となつてゐる。南岸は郊外地ダラであり、こゝには巨大な精米工場と象を使役する製材工場がある

商業地區の後方から北部にかけて高臺となつてゐるが、この山手地區は軍管區として軍の管理する特別區域である。ビルマ第一の有名なシュエ・ダゴン・パゴダ（黃金塔）はこゝに高々と聳えてゐるが、暴虐なイギリス人は、このパゴダ（佛塔）の境内の一部はもちろん、いたるところ佛域を荒して要塞化してゐると傳へられる。このパゴダの東方が美しいローヤル湖で、このあたり一帶巨大な樹木が欝蒼として一大公園をなし、雲表に輝く黃金塔と相和して絢爛豪華な眺めをなしてゐるといふことである

なほイギリス人が東洋一と誇稱し、今次のビルマ作戰以來わが荒鷲の好餌となつてゐるミンガラドン飛行場は、市の北方十五哩の地點にある

⇨ 風變りな佛式の火葬

⇦ 倚りかゝつてゐる佛陀

⇦ プザンダウング入江岸の精米工場

× ×

ラングーン市の人口は一九四一年三月の國勢調査では總人口約五十万、うち印度人は最も多くて約二十二万六千六百、續いてビルマ族十六万六千、ビルマ族以外のビルマ國人九千五百、支那人四万六千五百となつてゐる。從つてラングーンはビルマ人の町といふよりはむしろ印度人の町といふ感じが深い

由來、以夷制夷の奸策に長ずるイギリス人は、こゝでも印度人とビルマ人との反目の上に自己の安定をはかつてきたが、かゝる非道に天罰の加へられないはずはなく、今や日一日と皇軍の鐵蹄の響きが近づくにつれ、彼等の狼狽ぶりはその極に達してゐる模樣である。傳へられるウー・ソー首相逮捕の如きも、もし事實とすれば、如何に彼等があわてふためきながらも最後まで舊惡を覆はうとしてゐるかを示すもので、その心情の陋劣さはむしろあはれむべきものがある

だが最早、何としても彼等の命數は盡きた。信仰に生きるビルマ人は、恐らくこれを因果應報として心中快哉を叫んでゐるにちがひない。そして、東條內閣總理大臣が議會で明言したやうに『ビルマ人のビルマ』を許容するわが方針に感泣し、皇軍のラングーン入城を待ち焦れてゐることだらう

（寫眞は日本ビルマ協會提供）

落下傘部隊はこのやうに育てられた

陸軍

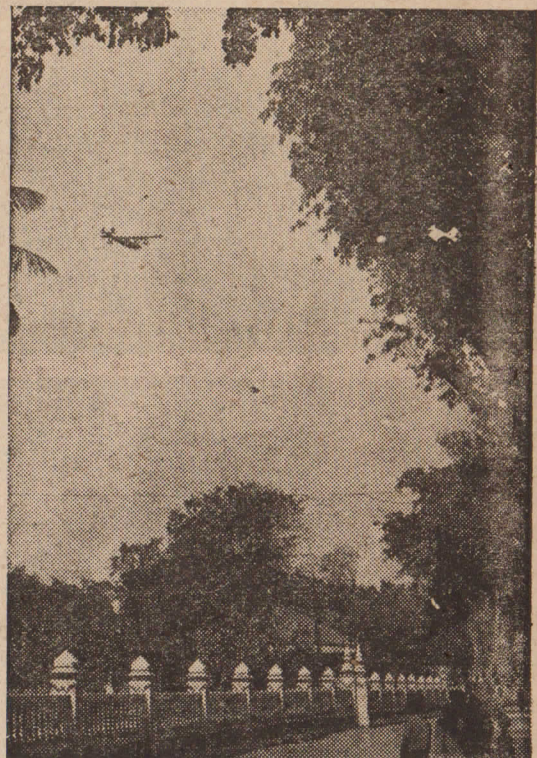
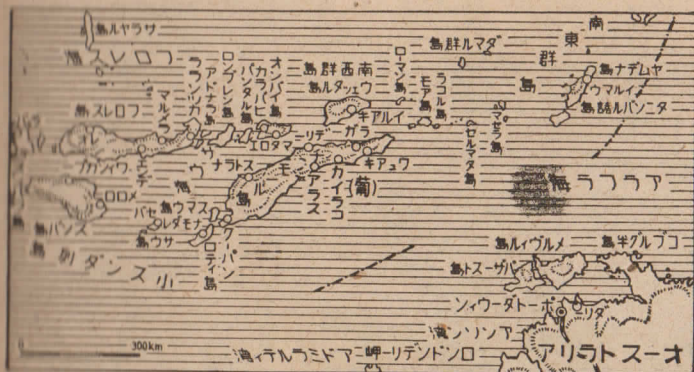
二月十四日、スマトラ島パレンバン油田地方の上空に忽然と降つて湧いたわが陸軍落下傘部隊は、敵の狼狽する中を隼の如く降下し、接地とともに忽ちにして附近一帶の敵陣を蹂躪し去つた。この思はざる奇襲に、蘭印の要島スマトラは一擧に心臓部を制せられ、米英蘭必死の抵抗線スンダ列島の陣地は先づここから崩れはじめた

⇦ ○○基地の朝は爽涼と明けた日頃の腕に物見せる日だ

⇩ 一陣の強風に飛び散つた落花の如く今敵陣の眞只中に突入する

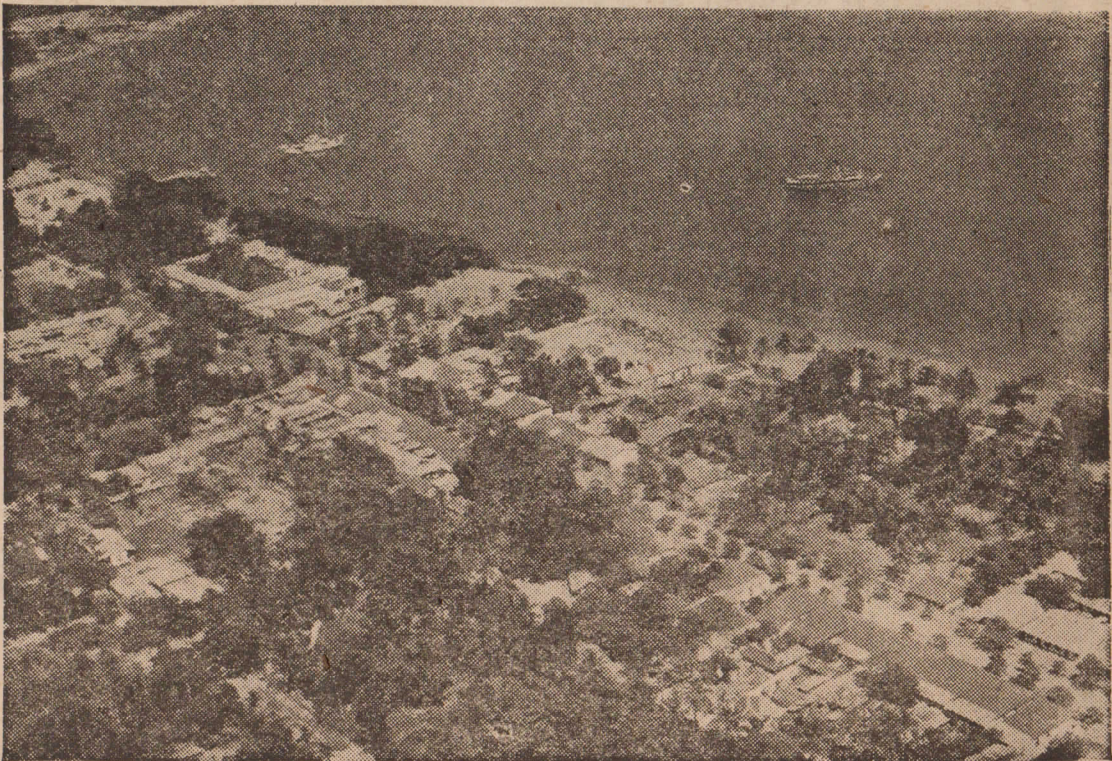
新戰場辭典 チモール

帝國陸海軍部隊は二月二十日未明、チモール島のポルトガル領に屬するデリーに、蘭領に屬するクーパンにそれ〴〵敵前上陸を敢行、こゝに策動してゐた英蘭軍を徹底的に撃破、戰果を擴大してゐる

チモール島はスンダ列島の東端に位する四國ぐらゐの大きさの小島であるが、蘭印の要港スラバヤから約千二百キロ、濠洲の要港ポートダーウィンからわづかに八百五十キロ、昭南島から約二千キロの距離にあり、英、蘭、濠を結ぶ敵性紐帶の結目にあたるため、今次戰爭の勃發するや、英蘭軍はポルトガル領チモール總督の強硬な抗議にもかゝはらず、中立國たる立場を無視して侵入以來、占據策謀してゐたのであつた。この地にわが武力の及んだことは、全蘭印はもとより濠洲の咽喉元を扼すやうなもので、北部濠洲最大の要港ポートダーウィンの爆撃とともに、今や濠洲の狼狽はその極に達してゐると傳へられる。もとより今次の上陸敢行は帝國自衞の立場よりなされたもので、ポルトガルが中立の態度を維持する限りその目的達成の上は、速かに兵力を撤收することは政府聲明にもあるところで、わが國とポルトガルとの友好關係に毫も變りのないことは勿論である

ポルトガル領チモールのデリー市へは昨年わが國との間に定期航空路が開かれ、川西式四發大飛行艇が本土を距たること六千數百キロ、赤道をとび越えて親善の翼を伸ばしてゐたことはまだ記憶に新らしい。また蘭領クーパンはチモール島随一の飛行場があり、英濠聯絡の重大航空基地であつた

人口約五十万、オセアニア人が大部分で歐米人、支那人各二千、他にアフリカ人、印度人などがゐる。コーヒー、ゴム、煙草、棉花、椰子等が輸出され、金、石油を産出し、林業、牧畜も盛んである

⇨ わが飛行艇の雄姿に驚嘆の眼をみはるオセアニア人

⇨ デリー市の上空を飛ぶ大日本航空の綾波號

⇨ 我が軍が敵前上陸を敢行したポルトガル領デリー市

落下傘部隊はこのやうに育てられた

體を柔かにする基本體操

接地後傘からの離脱訓練

機から離れる訓練

落下傘のたゝみ方を習ふ

糸が切れてドッと體が落ちる

撮影　陸軍航空本部

落下傘降下の訓練

陸軍航空本部部員
陸軍中佐　野中俊雄

先づ朝から晩まで體操また體操、身體がゴム毬のやうに弾力あるものになることが必要である。身體が出來ると共に、精神も極めて爽快になる。健全なる精神は健全なる身體に宿るとは、良くぞ言つたものだ。接地の際にドシンと落ちては衝撃が強い。コロリと轉ぶと衝撃の力が身體中に散つて弱くなる。體操で十分鍛へた上でコロリの稽古である。また飛行機から跳びだす要領が拙くては開く傘も開くまい。模型を作つて跳び出しの稽古である。踏み切りを強く、身體を伸ばして。次は傘を身體に結びつける縛帯をつけて、ブランコの稽古である。ブラ／＼搖つたトタンに吊つてあるのが脱れる

次は開いた傘にブラ下つて、高い所に吊り上げて、離されて見るとフワリと落ちてくる。そらもう接地だ。膝をまげて足を上げて、そらコロリと轉んで起きて、起き上り小法師の弟子入りである。落下傘降下塔を使つての訓練がこれである

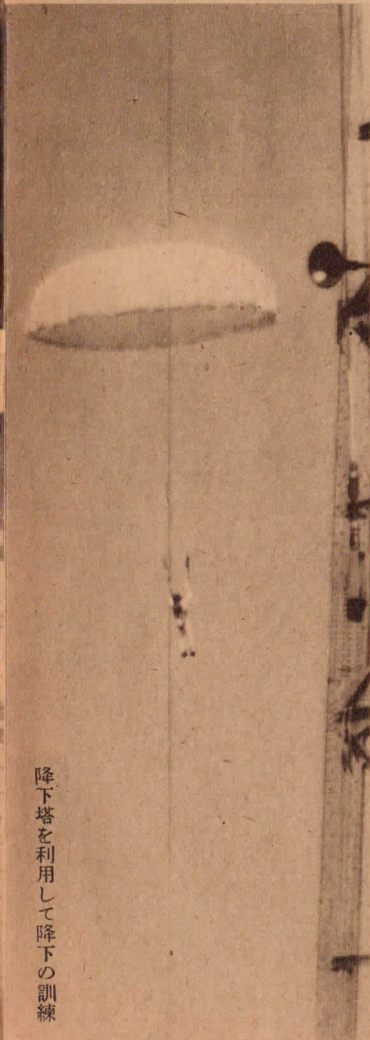
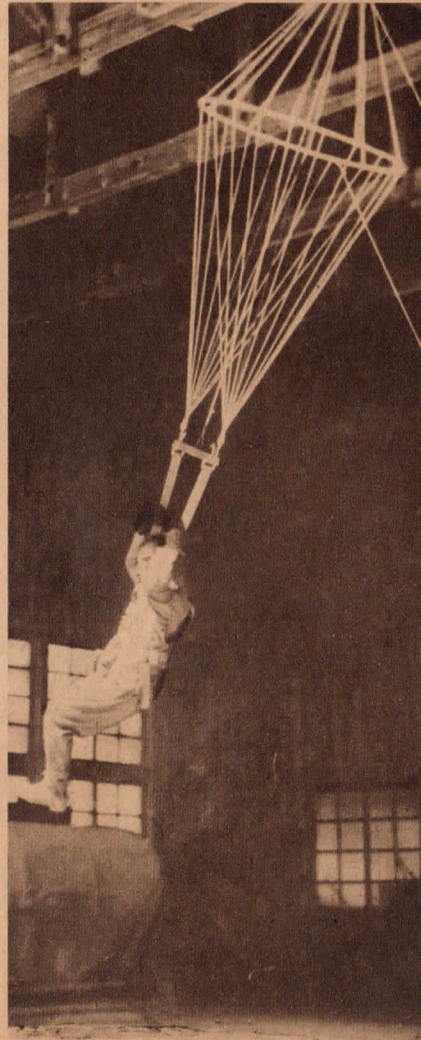
自分の生命を托す落下傘である。どんなに作られ、どんなにして開くものか、良く知つて置く必要がある。自分で使ふ落下傘は、自分で念入りに疊む。いよ／＼飛行機に乘つて降下である

初めての時は、國民學校の生徒が遠足に連れて行つてもらふやうな心のときめきを禁じ得ない。準備を整へて飛行機の入口に身構へする。教官に『よしッ』と肩をたゝかれて、踏み切りも強く、パッと跳び出した。パサッと傘が開いた。開いた傘を見上げると、噫、何と美しいではないか。さうだ。この美しさこそ落下傘降下部隊の精神である。純忠至誠の表徴である

やがて土地に近づく、さあ、身構へ。さあ接地。コロリと轉んだのが早いか、パッと立つたのが早いか。立つのが早いか、縛帯を脱したのが早いか。と思つたら早駈『報告ッ〇〇伍長降下終りッ。異狀なしッ』『よしッ』報告するのもうれしい。またすぐにも降下して見たい。しかし、他の者が羨しさうに待つてゐる

降下塔を利用して降下の訓練

激しい準備訓練を終へていよ／＼基本訓練に移る

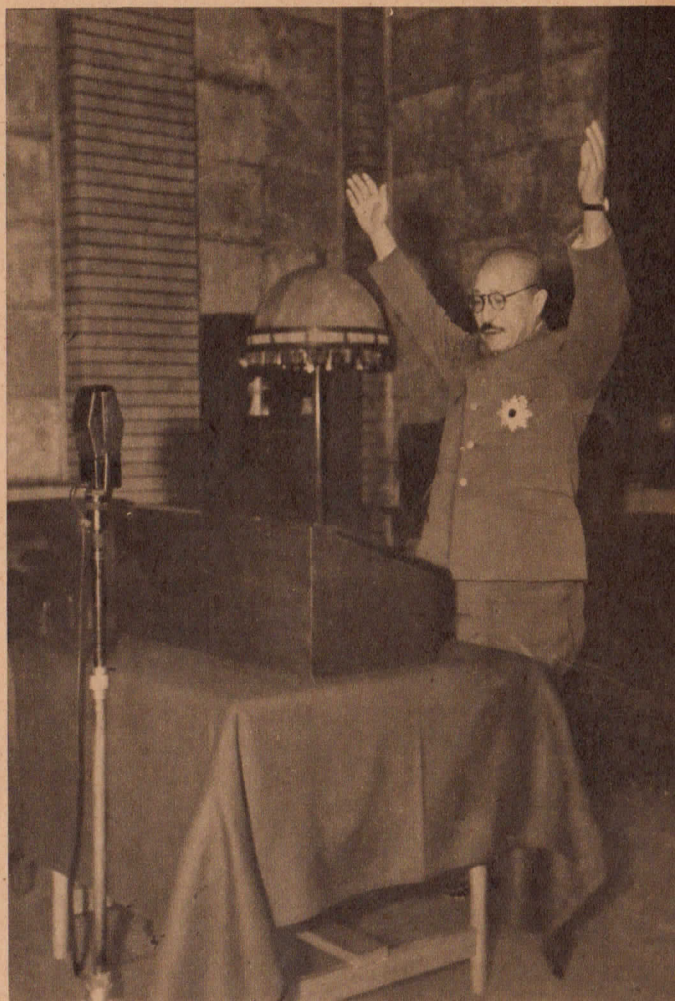
——と、一瞬、傘は將に開かうとする

アッ！機から體が飛びだした

ガンと強い衝撃、接地だ。ひきずられる體をすばやく戰闘態勢に直さねばならない

一億の萬歳合唱

押へに押へてきた戰捷の歡びであつた。み民われあゝ生けるしるしあり。今日、この日、この時こそ待ちに待てりと、一億國民の叫ぶ萬歳は天地をどよめかせて轟き渡つたのだ。高く、高く

⇩『…こゝに戰捷第一次祝賀に當り謹んで聖壽の萬歳を壽ぎ奉ります。天地も揺げとばかり御唱和願ひます』二月十八日正午東條内閣總理大臣は一億歡喜の萬歳に聲高々と音頭をとつた

⇦たうとうやつて呉れたなあ、俺達の作つたあの砲で、あの彈丸で。〇〇兵器廠に爆發する萬歳

⇨帝都では日比谷公園に戰捷祝賀の國民大會

⇨この日、この時、大阪市心齋橋筋に揚がる萬歳唱和

⇨靈峯に谺する萬歳の聲。靜岡縣御殿場町

⇨丹那はんも番頭はんも、お店揃つて勝鬨あげる大阪市船場の商店（撮影 小石 淸）

一億の萬歳合唱

⇨ 旗もちぎれよ、咽喉もさけよと、こゝ長野市でも數萬の市民が市民大會で（撮影　矢ケ崎陸朗）

⇨ シンガポールハカンラクダ、ニツポンバンザイ、バンバンザイ。雪の山形にあがる少國民の歡呼（撮影　田中順一）

⇦ 遙か南太平洋までも轟けと愛知縣三谷濱の漁船上でも（撮影　橋本滿資）

⇨ 俺達も大東亞の象だ。さあお鼻を高々と上げて萬歳だ　名古屋市東山動物園象の奉祝踊り（撮影　古海敏一）

⇦ 『さあ乾盃だよお爺さん』永生きした甲斐のあつたこの喜び。大阪府下にて（撮影　中藤　敦）

復習室

本號からあなたは何を學んだでせうか？

1 昭南市、バンコク間三千キロのマレー縱貫鐵道はいつごろ開通の見込みですか――さあ、ジョホール水道のコースウエー橋が破壞されてゐるから四月末頃でせうネ？　とつくに開通してゐるでせう？　いや、三月五日開通の豫定だつて？……（5頁）

2 シンガポール攻略戰で得た敵俘虜の總數は――八千？　一萬二千？　三萬五千？　五萬？　七萬三千？　十萬八千？　三十萬？（6頁）

3 わが海軍航空部隊が濠洲に對して最初の猛襲を敢行したのは――メルボルン？　ブリスベーン？　ポートダーウィン？　シドニー？　ジエラルトン？……（9頁）

4 現在のわが國人口は日露戰爭當時の人口に較べて約何倍に增えたでせう――一倍半？　二・二倍？　三・三倍？　四倍？　六倍半？（12頁）

5 ラッフルスといふ男は――改造チャーチル內閣に新入閣を傳へられる？　前英マレー軍司令官で散々の敗北に自國民から馬鹿野郞と罵らる？　シンガポールをジョホール王から奪ひ取つた？……（8頁）

6 皇軍のチモール島上陸は濠洲を極度に狼狽させましたがそれはどういふわけでせう？……（16頁）

7 ヴァルガスといふ人は――フィリピンの大統領だつたが、ヨットで濠洲へ逃げた？　アメリカ軍司令官でいまなほコレヒドール島要塞にかくれてゐる？　親日政治家で行政長官としてフィリピン再建に努力してゐる？……（10頁）

8 こんど皇軍の敵前上陸したバンカ島はどの邊にありますか――濠洲とニューギニアとの間？　ジャヴァ島のすぐ東？　スマトラ島の東南？……（9頁）

9 チモール島のデリーとクーパンは――いづれもポルトガル領？　デリーはポルトガル領、クーパンは蘭領？　デリーは蘭領、クーパンはポルトガル領？　いづれも蘭領？……（16頁）

10 ビルマの首都は――マンダレー？　ラシオ？　カルカッタ？　ラングーン？　ボンベイ？……（14頁）

一問十點としてあなたは何點でしたか？

情報局移轉のお知らせ

情報局は去る二月二十一日より、舊帝劇から三宅坂の舊參謀本部に移轉しました

東京市麴町區永田町一ノ一

大東亞戰爭漫畫日誌

石川進介

イギリスは泣きつ面に蜂

脫出英艦船三十二隻藻屑

わが落下傘部隊初奇襲

敵米司令長官ハート大將昇天

佛の顔も三度　印度獨立運動

昭南島の輝く誕生

照準器

⇦ **うわーッこんどはおいらの番だ！**

杉　柾夫

シンガポールの陥落で、こんどは愈々濠洲の番だと觀念してゐたら果してポートダーウィンの大空襲、『米英からの援軍はどうした？』『なに？　拙鼠一匹しか助かりませんと？　うわーッ』

⇩ **腹話術師の悲鳴**

榎本　映一

『かう敗けつゞけぢやルー君もう俺も君も辭めた方がいゝな』

⇨ **火の手は迫る弗箱印度**

森熊　猛

おらが帝國のドル箱インド、背負つて逃げたし重くて背負へず

⇩ **爐邊の火は消えたり**

小泉紫郎

物いへば唇寒しアジアの風、國民にも外國にもうつかり閑談などできなくなつたわい

★表紙

攻城七日にしてシンガポール遂に陷つ……『おい、こんなに早く陷ちるとは思はなかつたな……』『內地では……內地でも皆待つてたらうなあ』

夢にまでみたシンガポールだ。コタバル上陸戰で『シンガポール』を呼びつゝ散つた今は亡き戰友の顔が淚にうるむ眼に浮ぶ。あゝ……シンガポール遂に陷つ

エンパイアードックで萬歲を絕叫する〇〇部隊勇士

寫眞週報（禁轉載）

昭和十七年三月四日印刷發行

編輯者　情報局　東京市麴町區永田町一ノ一

印刷發行者　內閣印刷局　東京市麴町區大手町

定價	申込所
一部十錢 ▲豫約配送御希望の方は一部十錢（外國郵便に依る地域は十九錢）の割合を以て前金を添へ御申込み下さい ▲特大號の場合は其の都度御拂込金より差額を申受けます	全國各地官報販賣所 書店・驛賣店 新聞販賣店 寫眞材料店

本誌を戰地にお送りになる場合には送料は內地と同様で帶封あるひは開封にして第三種と明記すれば、一部一錢、二部一錢五厘、三部二錢です

寫眞週報 昭和十三年二月十二日 第三種郵便物認可 昭和十七年三月四日發行（毎週一回水曜日發行） 第二百十號

第一回戰時

貯蓄債券・報國債券

賣出 二月二十一日⇩三月二十日

一枚 十円・五円

大東亞戰争感謝貯蓄

大藏省・日本勸業銀行

內閣印刷局印刷發行

（本書の大きさは國定規格A4・「週報倍判」）